

第3号議案

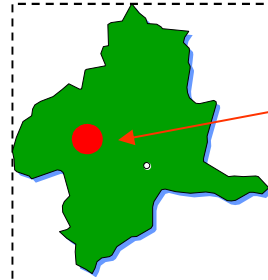
防災・安全交付金事業
かまたざわ
 (吾)鎌田沢 吾妻郡東吾妻町

着工年度
 評価理由

平成8年度
 再評価後5年経過

1. 事業の目的

上流域は急峻かつ脆弱な地層を有しており、浸食が激しく山腹には崩壊箇所も見られることから、下流域の人家等を土砂災害から保全するため堰堤工及び溪流保全工を行う。



事業位置
 東吾妻町



(浸食状況)



荒廃状況

(崩落状況)



2. 事業概要と進捗状況

事業概要

事業場所	あがつまぐんひがしがつままち 吾妻郡東吾妻町松谷	
区分	今回	前回再評価時
全体事業費	1600百万円	1300百万円
全体事業費増減の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・溪流保全工の計画見直し ・上信越自動車道交差BOXの追加 	
事業期間	H8～H28	H8～H26
事業内容	堰堤工 2基 溪流保全工 775m、床固 10基	堰堤工 2基 溪流保全工 775m、床固10基

事業経緯

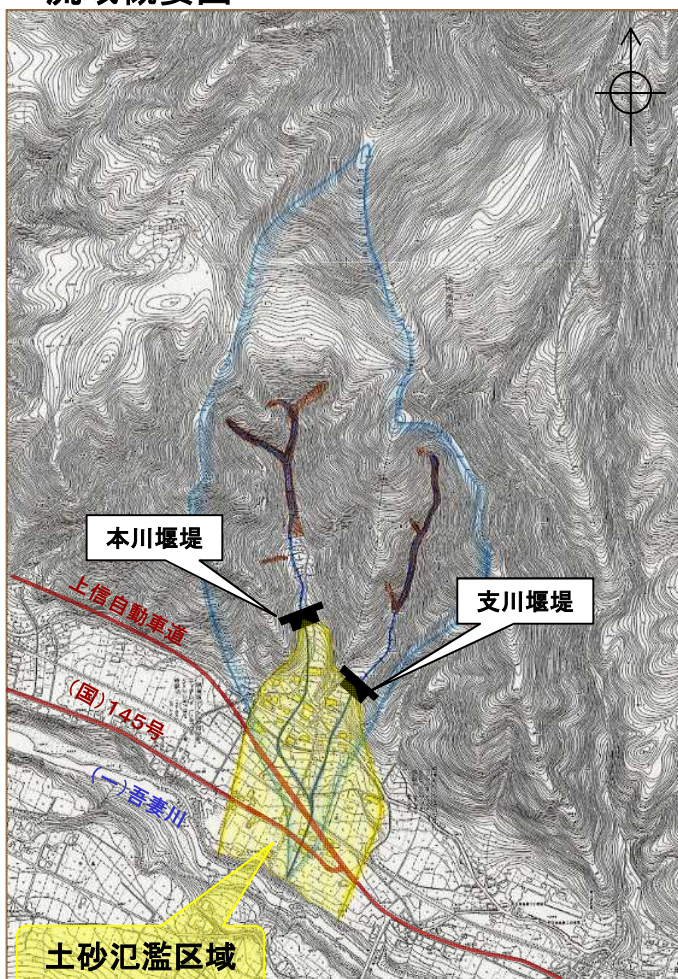
年度	主な経緯
H8	事業認可
H16	用地買収着手
H18	工事着工
H21	堰堤2基完成

進捗状況

	全体計画	現在の進捗状況 (進捗率)	前回評価時の進捗状況 (進捗率)
事業費	1600百万円	1456百万円 (91.0%)	1150百万円 (71.8%)
用地買収	19595m ²	19595m ² (100.0%)	18679m ² (95.3%)
計画延長	堰堤工 2基 溪流保全工 775m	堰堤工 2基 溪流保全工 370m	堰堤工 2基

2. 事業概要と進捗状況(図面・写真等)

流域概要図



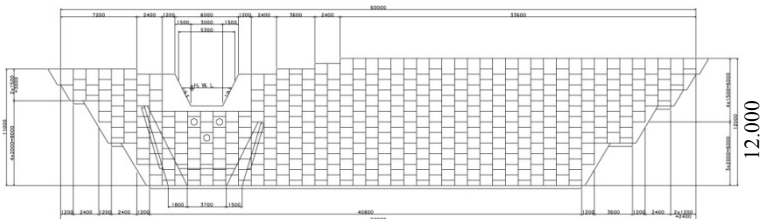
平面図



堰堤正面図

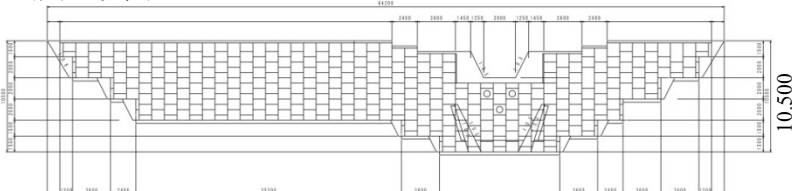
(本川堰堤)

60.000

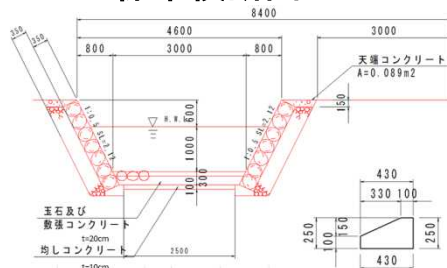


(支川堰堤)

64.200



標準横断面図



3. 事業の目的・必要性に変化はあるのか？

- ・上流域は急峻かつ脆弱な地層を有しており、浸食が激しく山腹には崩壊箇所も見られ、荒廃状況悪化しており、以前よりも増して土石流発生の危険性がある。
- ・被害想定区域には、人家24戸、国道145号、上信自動車道が存在している。
- ・上記のことから、事業の目的・必要性に変化はない。



保全対象
人家24戸



保全対象
国道145号

4. 目的を達成するための事業(手段)は適当か？

- ・上流域から発生する土石流を捕捉するため、地形・地質条件を踏まえ、砂防堰堤2基による効率的な計画としており、堰堤より下流区間は渓床・溪岸浸食を防止するため溪流保全工を計画している。
- ・上流域の土石流の捕捉するため、優先度の高い砂防堰堤に着手し、その後、溪流保全工に着手することとしており、効率的な事業展開に努めている。
- ・本川、支川堰堤施工箇所の地質調査の結果、基礎地盤が悪いため、堰堤構造を見直すことになったがダブルウォール工法を採用することにより、掘削土を堤体の中詰め材として利用し残土処理のコスト縮減に努めている。
- ・溪流保全工の掘削をしたところ礫・玉石が少なく、現在の河床勾配では溪床の洗掘が見込まれることから、石積み3面張水路へ変更している。また、上信自動車道のルート決定により、交差部のボックスカルバート工を追加している。

費用便益分析

		前回再評価時		今回再評価時		備考	便益説明
算出根拠マニュアル		土石流対策事業の費用便益分析マニュアル(案)		土石流対策事業の費用便益分析マニュアル(案)			
基準年		平成21年度		平成26年度			
区分	項目	現在価値	構成比	現在価値	構成比		
費用 (千円)	工事費	1,538,539	1.0	2,239,721	1.0		
	維持管理費						
費用合計(C)		1,538,539		2,239,721			
便益 (千円)	人的被害軽減額	563,358	29.2%	2,117,113	66.3%		被害区域内の人命を保護する効果【人家24戸】
	一般資産被害軽減額	868,307	45.0%	770,450	24.1%		被害区域内の家屋・家庭用品等に係る被害を軽減する効果【人家24戸】
	農作物被害軽減額	7,265	0.4%	5,842	0.2%		被害区域内の農業生産に係る被害を軽減する効果【耕地500a】
	公共公益施設等被害軽減額	488,960	25.4%	300,922	9.4%		被害区域内の公共公益施設等に係る被害を軽減する効果【国道700m 町道1200m 公民館1棟】
便益合計(B)		1,927,890		3,194,327			
費用対効果分析(B/C)		1.25		1.43			

5. 事業が長期間要している理由は？

【 元々が長期計画

不測の事態により長期化】

- ・全体計画が砂防堰堤が2基、溪流保全工の延長が775mと事業規模が大きい、さらには、事業箇所周辺では、猛禽類(クマタカ)の営巣中心域内に位置しており、繁殖活動を行う冬期間(12月～3月末)は工事を一時中止する必要があり、工事進捗が非効率であることから、元々が長期計画であった。
- ・溪流保全工の工事実施にあたっては、JR吾妻線の新線への移転後、道路事業との調整により、工事を進める予定であったが、JRの移転完了に約2年間の不測の日数を要したことから、さらなる長期化となった。

6. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし ・ 事業計画の変更 ・ スケジュールの変更

・本事業は、下流域の人家や地域高規格道路である上信自動車道等を土砂災害から保全することを目的としており、現在までに砂防堰堤2基・溪流保全工L=370mが完成しており、残りの上信自動車道交差ボックスカルバート、溪流保全工L=405mの整備を推進しているところである。

・用地買収・他事業との調整も完了しており、事業の進捗は91.0%となっていることから、集中的な予算投資を行い、残りの上信自動車道交差ボックスカルバート、溪流保全工L=405mを平成28年度までに完成させたい。

・上流域は急峻かつ脆弱な地層を有しており、浸食が激しく山腹には崩壊箇所も見られ、荒廃状況も悪化しており、以前よりも増して土石流発生の危険性があることから、その必要性は現時点においても非常に高く、人命や財産保護の観点から早期の効果発現を図ることが適切であり、事業継続が必要不可欠である。